

発掘された徳島

公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター

湯浅 利彦

はじめに

歴史の構築・過去の復元 ←記録 = 歴史学（文献史学）
←記憶 = 民俗学
←モノ = 考古学 新「発見」資料・蓄積進む
考古資料による構築・復元 文献のない時代（～古墳時代）
歴史時代でも考古資料が重要な役割

1 考古学と埋蔵文化財

（1）徳島県の考古資料 研究の黎明と埋蔵文化財（＝考古資料等）保護行政の進展

①江戸時代

- ・元木蘆州『燈下録』 文化9(1812)年 古墳・横穴石室の記録
- ・「珍物会品目」 19世紀前半に徳島城下で行われた「珍物」の展覧会四回の出品目録
古瓦、古鏡、古鏡、上古壺、土器、勾玉、水晶玉、経筒など考古資料が散見される

②明治期

- 明治4(1871)年太政官布告「古器旧物保存方」31分類のうち「古玉宝石」「石弩雷斧」「古鏡古鈴」「銅器」「古瓦」考古資料 保全すべきものを府県に届け出る
- 明治7(1874)年太政官達「古墳発見の節届出方」
古墳発掘の禁止・開墾対象となる古墳は図面を添えて届出
- 明治9(1876)年太政官布告「遺失物取扱規則」→遺失物法 埋蔵物の取扱い
- 明治30(1897)年制定 古社寺保存法
- ・鳥居龍蔵「阿波国二古墳ノ記」『東京人類学会報告』2-17、明治20(1887)年
- ・中井伊與太「阿波国の古墳」『東京人類学会報告』6-63、明治23(1890)年ほか
- ・笠井新也「阿波国の石器時代に関する研究」『東京人類学会雑誌』26-297、明治43(1910)年

③大正期

- 大正8(1919)年 史蹟名勝天然記念物保存法
- 大正10(1921)年 徳島県史蹟名勝天然記念物調査会
- ・喜田貞吉と笠井新也の阿波式石棺論争
- ・徳島市城山貝塚の発掘調査 鳥居龍蔵・森敬介・前田正一・井上達三、笠井新也
- ・徳島市三谷遺跡などの発見
- ・各郡村史の編纂

④昭和時代前期

- 昭和 4(1929)年 国宝保存法
- 昭和 8(1933)年 重要美術品の保存に関する法律

⑤昭和時代後期

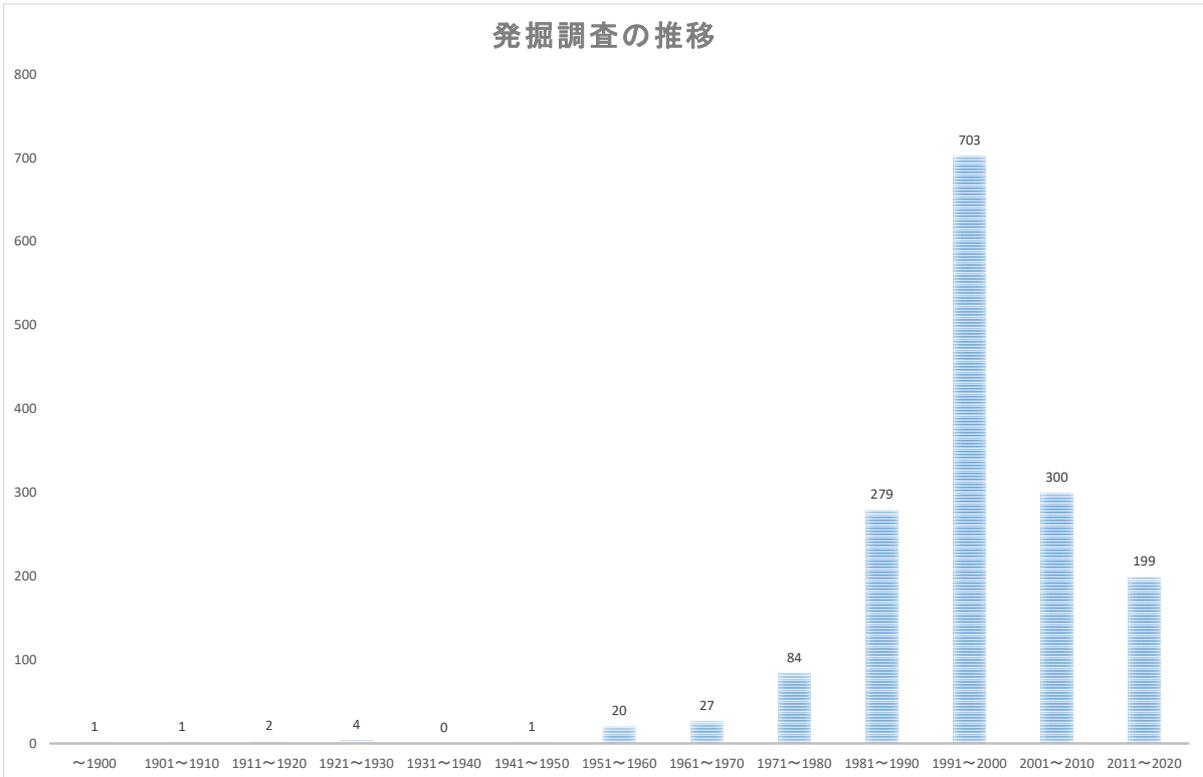
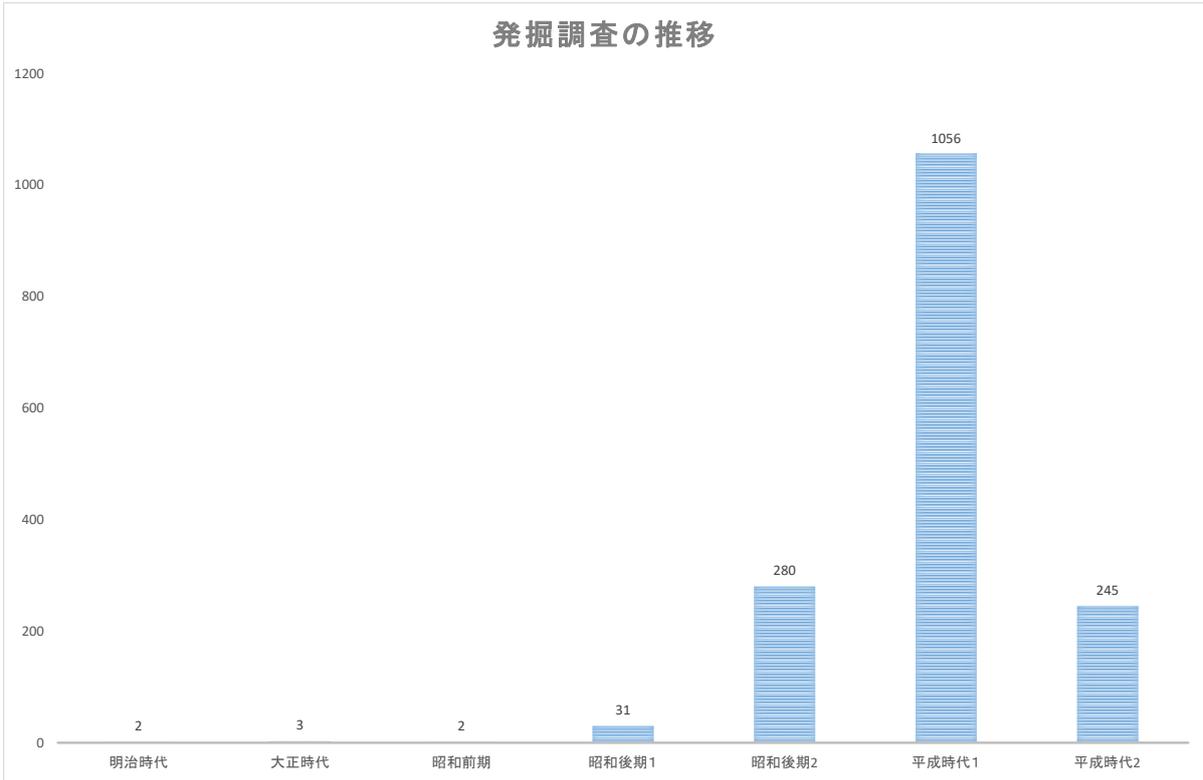
- 昭和 25(1950)年 文化財保護法 埋蔵文化財保護の仕組み
- 昭和 27(1952)年 徳島県文化財保護条例
- 昭和 32(1957)年 全部改正「文化財の保護に関する条例」
- ・『徳島県史』編集刊行
- ・昭和 40年代、徳島県博物館・県外大学(関西・同志社)等の調査
- ・「恵解山古墳群」問題 開発と文化財保護
吉野川北岸用水の建設
- 県教育委員会、社会教育課から分離して「文化課」設置
開発対応の調査 考古学専門職員の採用(県・徳島市)

⑥平成時代

- ・大規模開発(四国縦貫自動車道等)対応
平成元(1989)年 財団法人徳島県埋蔵文化財センターの設置
平成 7(1995)年 県立埋蔵文化財総合センター設置
- ・市町村・民間事業 各市町村教育委員会 専門職員の採用で対応
昭和時代末 3 市町 → 現在 13 市町
- 爆発的な資料増加

⑦令和時代

- ・文化財行政が県教育委員会から知事部局に移管 保護と活用の新時代へ



(2) 財団法人徳島県埋蔵文化財センター

① 30年の歩み

1988(昭和 63)年 四国縦貫自動車道建設に伴う事前調査(対象 36 万㎡)の対応策として
財団設立準備

1989(平成元)年 4 月 1 日 財団法人徳島県埋蔵文化財センター設立
工事請負方式・空中写真撮影図化方式を採用、大規模調査の効率的運営
四国縦貫自動車道関係調査以外は県教育委員会文化課が実施

1992(平成 4)年 建設省(国土交通省)の徳島南環状道路関連調査を業務に加える

1995(平成 7)年 県教育委員会が実施していた一般公共事業関連調査も加わる。

県教育委員会文化財課 = 事業者との調整・試掘調査

埋蔵文化財センター = 発掘調査・整理報告・大規模試掘調査

* 役割分担 = 埋蔵文化財行政の両輪

11 月 徳島県立埋蔵文化財総合センター 開所

県内の埋蔵文化財行政の中心拠点

出土資料の一括管理・展示

1996(平成 8)年 四国縦貫道・徳島南環状道路の調査ピーク

1998(平成 10)年 四国縦貫道調査概成 整理作業棟建設

2000(平成 12)年 四国横断自動車道調査完了

徳島県遺跡地図改定事業の開始

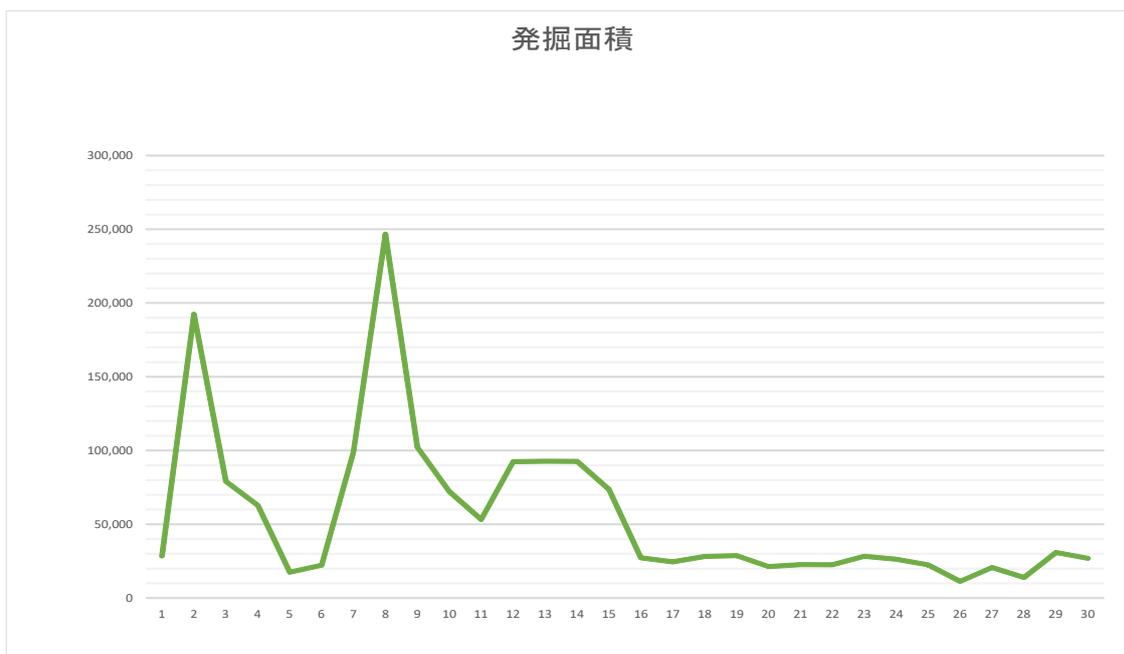
2003(平成 15)年 工事請負方式調査を止めてすべて直営調査とする = 発掘調査の小規模化

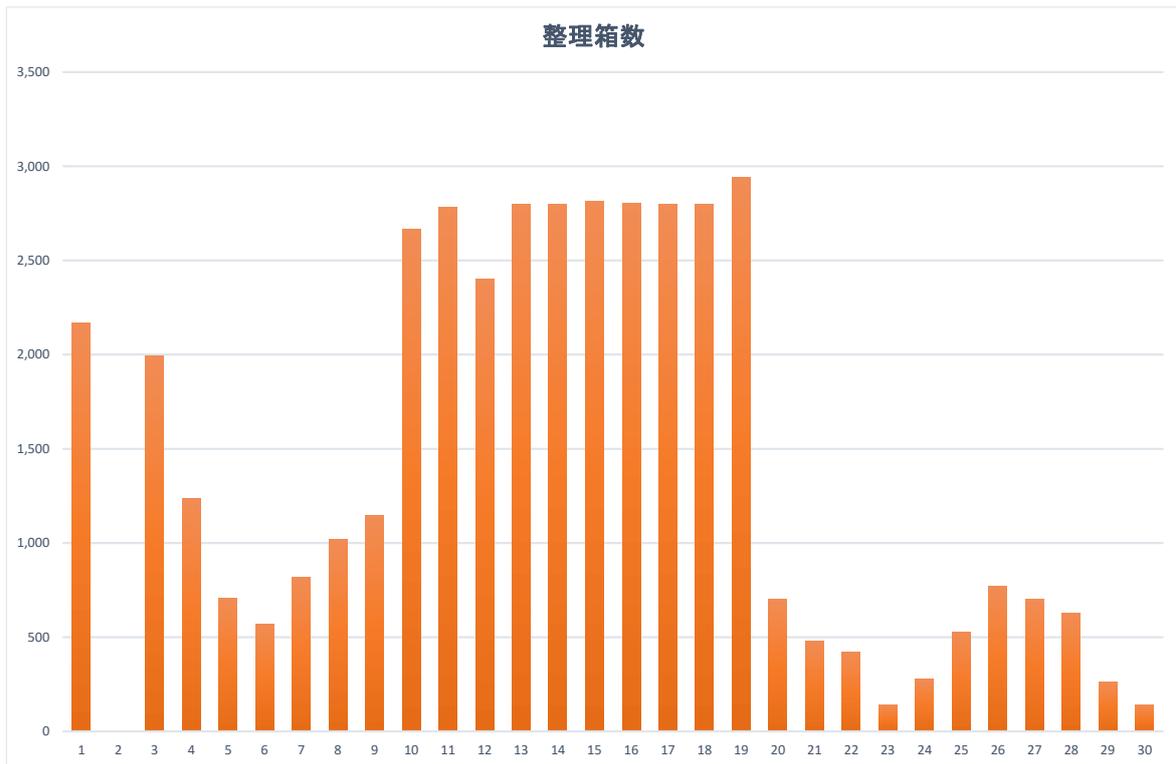
2008(平成 18)年 展示公開部分の指定管理者に指定される

2010(平成 22)年 法律の改正をうけ、公益財団法人となる

2015(平成 27)年 県立埋蔵文化財総合センター 20 周年 愛称募集「レキシルとくしま」

2019(令和元)年 5 月 組織改編により、文化財行政は教育委員会から知事部局に移管





②徳島県埋蔵文化財センターの30年間

- ◇発掘調査総面積 1,682,893 m²
- ◇出土品総点数 10,004,107 点 58,848 箱
- ◇発掘調査報告書 92 冊 総頁 49,216 頁
- ◇研究紀要 12 冊 68 本の論考と 4 本の資料紹介
- ◇普及事業 現地説明会、「発掘とくしま」、「発掘へんろ」、「長国の埋蔵文化財」、「アワコウコ楽専門講座」、報告会・講演会、古代体験、出張授業、講師派遣など、埋蔵文化財の重要性理解のための諸活動

③調査の精華

徳島の歴史、県内それぞれの地域の歴史を豊かにするうえで、大いに貢献している。埋蔵文化財センター調査がもとになって重要性が認められたもの

◆重要文化財 3件

- ・「**突線袈裟摺文銅鐸**」(矢野銅鐸) 1口 弥生時代後期の最新式銅鐸、埋納状況判明
平成7(1995)年 国指定
平成4(1992)年度 発掘調査 矢野遺跡(国道德島南環状道路建設)
調査概報 第1集、調査報告書 第33集
- ・「**徳島県観音寺・敷地遺跡出土品**」905点 古代国府の木簡・木製品・土器・金属製品等
平成27(2015)年 国指定
平成9(1997)～平成19(2007)年度 発掘調査

観音寺遺跡・敷地遺跡(国道德島南環状道路・県道德島環状線国府工区建設)
調査概報 第2・4集 調査報告書 第40・68・71・72・75・77集

- ・「**徳島県矢野遺跡出土品**」160点 縄文時代の日本最古の土面・土器・石器等
令和元年(平成31年3月国指定答申)
平成4(1992)～平成10(1998)年度 発掘調査 矢野遺跡(国道德島南環状道路建設)
調査報告書 第44集

◆史跡 1件

- ・「**鳴門板野古墳群**」 1件 弥生時代終末期～古墳時代前期の古墳群
(大代古墳・池谷宝幢寺古墳・天河別神社古墳群・萩原2号墓)
平成28(2016)年 国指定
昭和55～56(1980～81)年度 発掘調査 **萩原墳墓群**(県道12号、記録保存)
平成12(2000)年度 発掘調査 **大代古墳**(四国横断自動車道建設、現地保存)
平成16年(2004)年度 測量調査 池谷宝幢寺古墳(指定史跡保存活用事業)
平成16(2004)～18(2006)年度 発掘調査 萩原2号墓(指定史跡保存活用事業)
平成17(2005)～21(2009)年度 発掘調査 天河別神社古墳群(鳴門市教育委員会)
調査概報 第3集 調査報告書 第62・66集
『萩原2号墓発掘調査報告書』平成22(2010)県教委・埋蔵文化財センター
『天河別神社古墳群発掘調査報告書』平成23(2011)鳴門市教育委員会

◇県指定有形文化財

- ・**西山谷二号墳出土品** 一括 日本最古級の竪穴石室の副葬品
平成18(2006)年 県指定
平成10～12年度 発掘調査 西山谷古墳群(四国横断自動車道建設)
調査報告書 第62集 竪穴石室を移築保存
- ・**萩原1号墓出土品** 一括 弥生時代終末期墳墓の副葬品等
平成18(2006)年 県指定
昭和54(1979)年度 県教育委員会発掘調査(県道鳴門池田線建設)
『萩原墳墓群』昭和58(1983)県教委
- ・**蓮華谷古墳群(Ⅱ)二号墳出土品** 一括 古墳時代最初期の古墳副葬品
平成20(2008)年 県指定
平成2(1990)年度 発掘調査 蓮華谷古墳群(Ⅱ)(四国縦貫自動車道建設)
- ・**カネガ谷遺跡出土品** 90点 弥生時代後期の高地性集落出土品
平成20(2008)年 県指定
平成12(2000)年度 発掘調査 カネガ谷遺跡(四国横断自動車道建設)
調査概報 第3集 調査報告書 第62集

○遺構現地保存

- ・川西遺跡 護岸遺構 鎌倉～室町時代の川湊の接岸構造物
平成 20(2008)～平成 21(2009)年度 発掘調査

川西遺跡(国徳島南環状道路建設) 工法変更により遺構保存
調査報告書 第 91 集

2 発掘調査資料による徳島の歴史概観

(1) 旧石器時代(先土器時代)

①時代概要

- ・氷河期の人類(ホモ＝サピエンス)の探求
- ・日本列島への人類到達はいつ? 現在は約4万年前といわれている
- ・精密な石器製作 = 大型獣を追う遊動的な生活

②徳島の旧石器時代人

- ・徳島の旧石器時代人は約2万年前以降
吉野川北岸段丘上の遺跡群 採集石器と発掘調査 約50箇所
- ・**椎ヶ丸遺跡**(阿波市土成町)・**日吉谷遺跡**(同市阿波町)・東段遺跡(美馬市美馬町)
- ・石材＝サヌカイト 原産地(香川県国分台)からの搬入経路 阿讃山脈
石器の分析 → 消費地遺跡としての位置づけ

(2) 縄文時代

①時代概要

- ・氷河期が終わり温暖化(約14,000年前)→植生の多様化
- ・土器・弓矢・磨製石器などの発明・普及・多様化 = 狩猟・採集を中心とする生活

②徳島の縄文人

- ・遺跡数 136箇所、約50遺跡
- ・土器 かたちと文様＝相対年代と文化圏を表す
- ・石器(狩猟漁労用具・調理用具・加工用具など)の多様化と石材の遠隔地交流
- ・住まい = 岩陰・竪穴住居、集落
前半期は山間部・段丘上、遊動的な生活→後半期は沖積地に進出、定住的生活
- ・精神活動を表現するもの
土面・土偶・石棒・玉(瑛状耳飾、ヒスイ製大珠など)

③主な遺跡

- ・**矢野遺跡**(徳島市国府町) 大量の出土遺物 77000点、住居、炉跡など
中期と後期の境界の土器群 近畿と中四国の境界の文化
- ・加茂宮ノ前遺跡(阿南市加茂町) 大量の出土遺物 後期
円形配石遺構・竪穴住居跡・水銀朱関連遺物
- ・**稲持遺跡**(三好郡東みよし町) 大量の出土遺物 晩期
豊富な石器群 石器製作
- ・三谷遺跡(徳島市佐古町) 晩期【徳島市考古資料館】
豊富な自然遺物 犬の埋葬 縄文と弥生の境界

(3) 弥生時代

①時代概要

- ・大陸文化の受容 渡来人と縄文人の融合
稲作農耕の開始 共同体運営 金属器の伝来と製作 青銅器・鉄器
- ・ムラからクニへ 邪馬台国へ
- ・大陸との交流 いわゆる『魏志倭人伝』など

②徳島最初の弥生人

- ・庄遺跡群(南蔵本、**庄・蔵本、庄**、南庄、**名東**の眉山北西麓の遺跡群) (徳島市)
最初に稲作を始めた集団 (前期前半) 三谷遺跡の縄文人との交流
- ・前期後半に県内各地に広がる 縄文晩期後半→弥生前期後半

③生業と集落

- ・水田遺構
前期前半 庄遺跡群 灌漑水路
前期末～中期 大柿遺跡 棚田 水路
後期前半～終末期 黒谷川宮ノ前遺跡(板野町大寺) 水田 池
後期後半 大柿遺跡・延命遺跡(徳島市国府町)・石井城ノ内遺跡
- ・農耕具
石庖丁(磨製・打製)、木製農具など
- ・集落 平野部(前期) → 台地上(中期) → 平野部(後期)大規模化
前期 庄・蔵本遺跡(環濠集落)前期前半
黒谷川郡頭遺跡 宮ノ本遺跡 大柿遺跡
中期 高位台地性集落(高地性集落) 中期～後期初頭の吉野川北岸に顕著
丸山遺跡・大谷尻遺跡(三好市三野町)
西長峰遺跡・日吉谷遺跡・**桜ノ岡遺跡 I**(阿波市阿波町)・**北原遺跡**
(同市土成町) 桧はちまき山遺跡・**カネガ谷遺跡**(鳴門市大麻町)
後期 平野部(沖積地)の大規模集落 後期
大柿遺跡、**黒谷川郡頭遺跡、矢野遺跡、庄遺跡群**など

④金属器と特産物がもたらした交流

- ・鉄器 鍛冶工房(鍛冶炉)
中期 光勝院寺内遺跡(鳴門市大麻町)
中期末～後期 加茂宮ノ前遺跡(阿南市加茂町)・矢野遺跡
終末期 拝原東遺跡(美馬市脇町)
- ・青銅器 銅鐸
全国有数の出土量 約44個 (旧国単位で全国2位)
埋納状況 集落内 **矢野銅鐸**(発掘)
墓域内 **名東銅鐸**(発掘)【徳島市考古資料館】
大集落周辺山地 源田、安都真、星河内美田(徳島市)
山地 長者ヶ原、田村谷、曲(阿南市)など
【東京国立博物館・徳島県立博物館など】
近畿地方との関係 阿南地域の銅鐸 朱との交換説

・朱

若杉山遺跡(阿南市水井町) 水銀朱鉱石の採掘遺跡 原産地
原産地周辺の遺跡 加茂宮ノ前遺跡 中～後期
深瀬遺跡(阿南市深瀬町)

消費地遺跡(または中継地)

名東遺跡、矢野遺跡、黒谷川郡頭遺跡など県央部の遺跡
上天神遺跡(高松市)

・玉

蛇紋岩製勾玉の製造と拡散 吉野川流域の勾玉生産

稻持遺跡(東みよし町加茂) 勾玉生産工房 大量の未製品 流通
七条経塚遺跡(上板町)、**矢野遺跡** 勾玉生産工房

⑤特色ある墓の大型化

・集石墓

中期中葉 桜ノ岡遺跡 I 集石土壙墓

中期末～後期初頭 北原、北原～大法寺、前田遺跡など(阿波市土成町)

後期中葉～末 **足代東原遺跡**(東みよし町) 円形積石墓

・方形周溝墓(中～後期)

名東遺跡、庄・蔵本遺跡、矢野遺跡、東州津遺跡(三好市池田町)

・円形周溝墓(中～後期)

西貝川遺跡(東みよし町昼間)、矢野遺跡、芝遺跡(海陽町)

・突出部付円丘墓(終末期)

萩原1号墓・2号墓(鳴門市大麻町) ヤマトへの影響

足代東原遺跡 1号墓

・竪穴石室墓 延命墓(終末期)

・土器棺墓 安楽寺谷墳墓群(終末期)

(4) 古墳時代

①時代概要

- ・巨大な墳丘墓が造営された時代 = 政治権力の形成

奈良県箸墓の造築を画期とする(3世紀半ば) 笠井新也説「卑弥呼の墓」

- ・前方後円墳体制 ヤマトと地方

- ・大陸文化の受容 横穴式石室 須恵器 鉄器 馬など 渡来人の役割

②徳島の古墳文化

- ・最古期の古墳

鳴門板野古墳群 天河別神社古墳群 1号墳、西山谷 2号墳 **蓮華谷古墳群2号墳**

気延山古墳群 宮谷古墳 奥谷 2号墳

- ・前期～中期前半 前方後円墳の時代

鳴門板野古墳群 天河別神社古墳群 3号墳 愛宕山古墳(板野町川端)

宝幢寺古墳 大代古墳

気延山古墳群 奥谷 1号墳

- 丹田古墳（東みよし町西庄）・国高山古墳（阿南市内原町）
- 渋野丸山古墳 県内最大 最後
- ・中期 箱式石棺墓の盛行 恵解山古墳群、**犬山天神山古墳**（徳島市八万町）
- ・後期 横穴石室墳の盛行
 - 「段ノ塚穴型石室」 **段ノ塚穴**古墳群など旧美馬郡中心に分布
 - 「忌部山型石室」 忌部山古墳群など旧麻植郡・阿波郡・板野郡西部に分布
 - 「矢野型石室」 畿内の石室 矢野古墳・大里2号墳など
県央部～県南部
- ・副葬品 **鉄器、装身具、日常雑器**など
- ・埴輪 **円筒埴輪、形象埴輪(巫女形、馬形、家形など)**

④集落

- 前期 貞光前田遺跡 石井城ノ内遺跡
- 中期 敷地遺跡（徳島市国府町）
- 後期 大柿遺跡、中庄東遺跡（東みよし町）、日吉谷遺跡、清成遺跡、名東遺跡
敷地遺跡、寺山遺跡（徳島市）

(5) 古代（飛鳥・奈良・平安時代）

①時代概要

- ・古代律令国家の確立 遣隋使・遣唐使による中国政治体制の受容
地方政治体制の編成
- ・仏教文化の受容 → 律令制強化のため国家仏教化
- ・律令国家から王朝国家への変質 維持の努力と実態に適應する努力
- ・仏教文化の進展・普及

②大宝律令以前の徳島

- ・「粟国」「長国」分立か 「ミマ国」？ 阿波国への再編成
- ・終末期古墳 地蔵院古墳（徳島市名東町）矢野古墳、大里古墳など 7世紀古墳

③阿波国府をめぐる諸問題

- ・方八町の方面地割り説 → 発掘調査 → 分散的所在説 = 観音寺地区中心
- ・**観音寺・敷地木簡**の発見「論語木簡」「難波津の歌」「紀年木簡」「習書木簡」
「五十戸税」「板野国守」「勘籍木簡」
「麻植評」「荷札木簡」に記された県内地名多数
- ・敷地地区の国司館（8世紀前半4棟、9世紀前半6棟）
せんだんの木地区（正方位10棟、8世紀）
- ・国造墓碑 正面「阿波国造 名方郡 大領 正七位下 栗凡直 弟臣 墓」
側面「養老七年歳次癸亥年立」 【石井町中王子神社蔵】

④郡衙・駅

- ・**道路遺構** 矢野遺跡 国分寺に向かう中路規模の道路遺構
- ・名方郡衙 国衙隣接地「かうけ」地名 観音寺木簡の内容 名方郡内地名の多さ
庄遺跡・名東遺跡 方形柱穴建物・**墨書土器・石帯**

- ・板野郡衙 **黒谷川宮ノ前遺跡** 齋串・人形・鍔帯金具等 10世紀
- ・那賀郡衙 川原遺跡（阿南市宝田町）
- ・官衙的遺跡 相知遺跡（三好市井川町）掘立建物5棟 8世紀中葉
立江馬淵・柳内遺跡（小松島市立江町） 緑釉陶器 人形・齋串
- ・駅 南海道関連 中内・光勝院寺内遺跡（鳴門市大麻町）8世紀
郡頭一國府間 黒谷川郡頭遺跡、古町遺跡（板野町）

⑤古墳から寺院へ

- 白鳳期 郡里廃寺（美馬市美馬町）、**立善廃寺**（阿南市宝田町）
- 奈良期 国分寺（徳島市国府町）、国分尼寺（石井町尼寺）、石井廃寺（石井町）
～ 河辺寺（吉野川市鴨島町）、川島廃寺（吉野川市）
- 平安期 大浦遺跡（徳島市名東町）密教法具の鑄造 11世紀
- ・その他 **宮ノ前遺跡(板野町) 6.8cmの鉛製誕生仏**

⑥集落と生産

- ・集落
 - 竪穴住居中心 6～8世紀 大柿遺跡 末石遺跡（東みよし町西庄）
矢野遺跡 観音寺・敷地遺跡
 - 掘立建物中心 大柿遺跡 観音寺・矢野・延命遺跡（徳島市国府町）
- ・水田遺構 観音寺、敷地、池尻桜間遺跡（徳島市国府町）
奈良時代開田 地形の制約 条里地割との関係なし
8世紀代 新島荘枚方地区絵図（758年）国分寺・尼寺造営との関係
9世紀代～10世紀代 中庄東遺跡など
- ・窯業 内原成松窯（阿南市内原町）、内御田瓦窯（徳島市入田町）、
香美窯（阿波市市場町）西原瓦窯（同市阿波町）、
旗見窯（吉野川市山川町）、坊僧窯（美馬市美馬町）

(6) 中世（平安後期・鎌倉・室町・戦国時代）

①時代概要

- ・公権力（律令国家）と私権力（院・幕府・戦国大名）相克の時代
国衙領と荘園をめぐる権力関係の複雑化 分権国家化
院政：平安後期、鎌倉幕府：鎌倉時代、南朝・北朝（室町幕府）：南北朝時代
室町幕府：室町時代、戦国大名：戦国時代
- ・貿易と商品経済の発展
日宋・日元・日明・日朝貿易、輸入銭の導入、商品流通

②徳島の集落と荘園

- ・有力農民層区画屋敷地（鎌倉末～室町時代）
黒谷川宮ノ前遺跡・古城遺跡（板野町）町口遺跡（阿波市吉野町）など
- ・阿讃山麓の遺跡群 田上遺跡（美馬市脇町） 掘立柱建物 柱穴内瓦＝寺院跡
- ・荘園との関係 名東荘 **名東・中島田遺跡**
萱島荘 大松遺跡（徳島市川内町）
三野田保 円通寺遺跡（東みよし町昼間）居館→城館

金丸荘 中庄東遺跡（東みよし町）
竹原荘 宮ノ本遺跡（阿南市長生町）

③生産と流通

- ・窯・鍛冶・木炭 集落内で小規模に
- ・埋納銭 大里（海陽町）、長生（阿南市）、一宮、寺山遺跡（徳島市）など
- ・輸入陶磁器（青磁・白磁） 国内各地の陶器（東播系・備前・常滑など）
- ・川湊 川西遺跡（徳島市上八万町） 13世紀～16世紀
- ・市庭 中島田遺跡 掘立柱建物群

④仏教関係

- ・神宮寺遺跡（上板町神宅） 礎石建物・掘立柱建物群 13～15世紀
- ・正貴寺跡（藍住町勝瑞） 16世紀
- ・浄土寺遺跡（鳴門市大麻町）
- ・吉水遺跡（美馬市美馬町） 輪宝 瓦
- ・敷地遺跡（徳島市国府町） 柿経 2289点 15世紀末～16世紀後半

⑤中世城館と勝瑞

- ・中世城館総合調査 約400箇所の山城と平地居館跡
記録・伝承と地籍図・現地地形等から推定
特色 小規模 造作の少ない現況＝戦闘経験が少ない
- ・発掘例 円通寺遺跡 区画溝→堀・土塁 13～15世紀
重清城（美馬市美馬町）土塁・堀 15世紀代
岩倉城（＝田上I遺跡）（美馬市脇町）空堀・犬走り
秋月城（阿波市土成町）本丸跡、寺院跡等調査
一宮城（徳島市一宮町）平地居館の濠か
木津城（鳴門市木津町）連続縦堀跡 長宗我部氏の改変
- ・勝瑞城館と守護町勝瑞【藍住町勝瑞城館跡】
勝瑞城跡が細川氏の守護所説 → 発掘調査 → 16世紀末の造営が判明→
→ 守護所の探索＝発掘調査 → 濠に囲われた連続方形区画群 →
→ 三好氏の居館 + 守護町勝瑞遺跡 正貴寺跡
細川氏居館の位置課題

（7）近世（安土桃山・江戸時代）

①時代概要

- ・全国統一への道 織豊政権：安土桃山時代
- ・経済の発展 中世的規制の解除 南蛮貿易
- ・幕藩体制の確立：江戸時代 幕府の大名統制政治と藩の分権政治
- ・経済の発展 地方特産物 流通の仕組み（海運・街道）の整備
生産の仕組み 手工業（家内制・工場制）の進化
→ 庶民の台頭
- ・鎖国外交 オランダ・清・朝鮮・琉球との外交・情報収集 洋学の導入

②近世城郭

- ・蜂須賀入部 一宮城 → 徳島城
一宮城の調査
徳島城の調査 鷲の門周辺蔵跡 天保期の絵図と一致
表御殿・奥御殿(徳島城博物館建設地)ほか
惣構え

③徳島城下町

- ・新蔵・徳島・常三島・出来島・福島・前川各地区の調査
丸太を使用した建物基礎 地盤沈下防止
荷札木簡 年貢と地方知行制
国内各地の陶磁器 注連縄文茶碗 輸入品 オランダ陶器
- ・安宅役所「御船屋跡」 常三島 → 安宅地区
- ・蜂須賀家墓所 興源寺墓所＝仏式 万年山墓所＝儒式

④四国遍路

- ・遍路道と札所寺院

(8) 近代(明治・大正・昭和前半)

①時代概要

- ・西欧的近代国家の形成と発展 中央集権政治 地租・徴兵・学制
- ・殖産興業 経済発展 官営工場→ 軽工業 → 重化学工業
- ・対外戦争(日清・日露・第1次世界大戦・満州事変・日中・太平洋戦争)

②板東俘虜収容所【鳴門市】

- ・ドイツ人俘虜作成の収容所配置図と遺構

③戦跡遺跡

- ・徳島空襲の戦災遺物
- ・小勝島特攻基地

むすびに

- ・考古資料は、暮らしや歴史を復元するための物的資料
埋蔵文化財は、考古資料の状態を示す用語
- ・考古資料の学術的価値が高く評価されたもの＝文化財指定
- ・膨大となった考古資料(埋蔵文化財)を用いた歴史の構築は、
事実とそれぞれの関係性に基づく、着実に総合的な解釈が必要
*過大な解釈や飛躍は「偽史」を招く
- ・平成時代は考古資料急増の30年
→ 分析・研究 + 文献史学や民俗学との連携
→ 多視点アプローチで徳島の歴史を豊かに